

# インフラメンテナンス国民会議

## ファクトブック

### 2017-18



平成30年3月

インフラメンテナンス国民会議  
Japanese Congress for Infrastructure Management





# (1) 設立

## インフラメンテナンス国民会議設立総会



2016年11月28日(月)に国土交通省においてインフラメンテナンス国民会議設立総会を開催し、インフラメンテナンス国民会議は設立された。

設立総会では、国土交通省森技監の挨拶が行われた後、会長として株式会社経営共創基盤の富山代表取締役CEO、副会長として政策研究大学院大学家田教授が、実行委員15名が選任された。

総会に続いて開催された設立記念大会では、提唱者である国土交通省根本幸典政務官の挨拶の後、来賓の紹介と記念撮影、家田副会長による記念講演と富山会長の挨拶が行われた。

### 概要

**日時：** 2016年11月28日（月） 11：20～12：25      **場所：** 中央合同庁舎3号館10階会議室

**議事：** 第Ⅰ部（設立総会）

会長・副会長等の選任、会長・副会長の挨拶

第Ⅱ部（設立記念大会）

国土交通大臣政務官挨拶、記念撮影、記念講演、会長挨拶

**出席者：** ・ **来賓：**

衆議院議員（前国土交通大臣政務官）

宮内 秀樹

総務大臣政務官

金子 めぐみ

防衛大臣政務官

宮澤 博行

・ **会長：**

株式会社経営共創基盤 代表取締役CEO

富山 和彦

・ **副会長：**

政策研究大学院大学 教授

家田 仁

・ **提唱者：**

国土交通大臣政務官

根本 幸典

・ **会員（企業）等：** 175名

・ **会員（自治体）：** 22名

・ **関係省庁：** 31名

内閣府、警察庁、総務省、  
文部科学省、厚生労働省、農林水産省、  
経済産業省、防衛省、国土交通省

・ **マスコミ：** 41名

※役職は2016年11月28日当時

## ◎ 富山会長 挨拶



私個人として、国民会議に対する思いをいくつか申し上げます。

1つはシェアリングエコノミーです。人口減少社会においては純粋な民間ベースでは難しくなり、公共財領域がこれから広がっていくはずですが、この社会的共有資産をどう上手に使うかが経済と社会の両方にとって極めて重要な基幹的課題となります。

2つ目が地方創生です。これからの成長政策、戦略において、ローカル経済圏にこそ成長代があるのではないかと考えています。その中で建設産業は地域社会・経済・生活を支えることから、地方経済の生産性革命を起こす上で、建設産業、特にメンテナンスは地方創生の非常に大きなドライバーになる面を持っています。

3つ目。笹子の事故の時に私は中日本高速の監査役をやっておりました。あの事故が契機でメンテナンスの問題が着目を浴び、当事者の一端でもあることから自分なりに背負っていくものがあります。なので、今回の国民会議でお役に立つことでその思いを一部でも返せることができればと思っています。

最後に、メンテナンスの領域はIoT、AIの技術が直接フィードバックされて使いやすい領域だと考えています。日本が永年蓄積してきているハードウェアのテクノロジーやノウハウをAI等へ蓄積して活用することで生産性が向上し、そのように技術伝承を進めることで真に生産性革命を起こす可能性が高い領域です。

この国民会議が革命・イノベーションの起点となり、エンジンとなるべく、実際の主役となる民間企業、地方のみなさんを巻き込んだ運動となるよう私も精一杯頑張っていきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

## ◎ 家田副会長 記念講演



社会資本メンテナンス戦略小委員会ができてから、これまでに定められた提言を大別すると、おおそ3つのジャンルに分かれます。

第一は、制度論的な側面です。メンテナンスのために点検することが法制化されていなかったことがわかり、小委員会できちんと法制度にしようとして制度論的な改善を促す議論がなされました。また、自治体の体制が人員・人材的にミニマムマスを満たせていないため、様々な制度論的な糸口が当時検討されました。

二つ目は、技術論的な側面です。人間はより高度な判断が必要な時に登場するべきでないと言われており、メンテナンスの世界もAIを使っていけると思います。また、メンテナンスの効率化・確実化を実現するために、別の会社の技術を融合することにより新しい体制を作ることに大いに期待しています。

第三は、マインドに関する柱です。1つはメンテナンスする側のマインド、もう1つはそれを見守る側のマインドです。事故が起こると大変な関心が集まりますが、時間が経つと忘れる。その繰り返しになってはいけません。何としても国民の関心を「メンテナンス」という地味な分野に常に振り向けなくてはならない。

そのため、この「国民会議」という大きな名前を付けていると理解しています。広い意味で国民に感心を持っていただき、メンテナンスの本質をできるだけ理解していただき、そして、シンパシーを感じていただきながら参加してもらおう。

今後この国民会議を育てていけるよう一生懸命取り組みたいと思いますし、皆さんの知恵を出して汗をかいていただくことをお願ひしたいと思います。

## ◎ 当日の写真



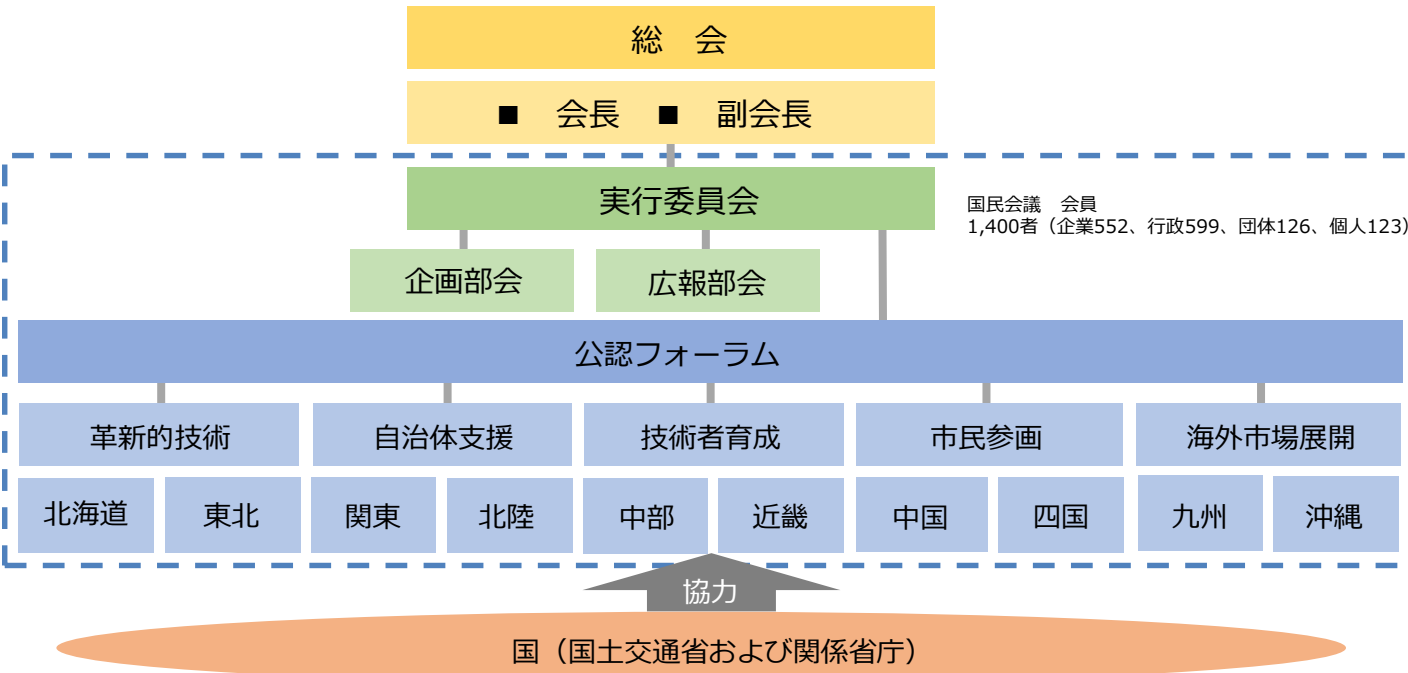
根本政務官 挨拶



記念撮影

# インフラメンテナンス国民会議 設立までの歩み

平成24年7月25日	国土交通大臣から社会資本整備審議会会長及び交通政策審議会会長あて「今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について」の諮問
平成24年7月31日	第9回社会資本整備審議会・交通政策審議会技術分科会技術部会（以下 技術部会）・社会資本メンテナンス戦略小委員会の設置
平成24年12月2日	中央自動車道笹子トンネル天井板落下事故
平成25年	「社会資本メンテナンス元年」として位置付け
平成25年1月21日	社会資本の老朽化対策会議 設置
平成25年1月30日	社会資本メンテナンス戦略小委員会緊急提言 「本格的なメンテナンス時代に向けたインフラ政策の総合的な充実～キックオフ「メンテナンス政策元年」～」(大臣への手交)
平成25年3月21日	社会資本の老朽化対策会議 ・「社会資本の維持管理・更新について当面講ずべき措置」決定
平成25年5月30日	「今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について」中間答申(大臣への手交)
平成25年10月4日	インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議 設置
平成25年11月29日	インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議 ・「インフラ長寿命化基本計画」決定
平成25年12月25日	「今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について」答申
平成26年5月21日	社会資本の老朽化対策会議 ・「国土交通省インフラ長寿命化計画(行動計画)」決定
平成27年2月27日	技術部会「社会資本のメンテナンス情報に関わる3つのミッションとその推進方策」提言 ・インフラメンテナンス国民会議(仮称)の設置等提言
平成27年6月30日	「日本再興戦略改訂2015-未来への投資・生産性革命-」閣議決定 ・インフラメンテナンス国民会議(仮称)の設立 位置付け
平成27年11月27日 ～12月16日	インフラメンテナンス国民会議(仮称)の設立に向けた意見交換会(第1回)の実施 ・約80の企業・団体から意見をヒアリング
平成28年4月15日 ～4月27日	インフラメンテナンス国民会議(仮称)の設立に向けた意見交換会(第2回)の実施 ・国民会議の青写真をもとに約70の企業・団体と意見交換
平成28年6月2日	「日本再興戦略2016-第4次産業革命に向けて-」閣議決定 ・インフラメンテナンス国民会議(仮称)の設置 位置付け
平成28年7月29日	政務官勉強会提言 ・「インフラメンテナンスの加速化」提言 ・インフラメンテナンス国民会議(仮称)の創設 位置付け
平成28年6月2日 ～9月29日	インフラメンテナンス国民会議(仮称)の設立に向けた準備会の実施 ・国民会議の運営に参加したい企業・団体と、具体的な組織や実施事項について検討開始 ・各種部会、フォーラム準備会により、検討内容、進め方等について議論(延べ11回開催)
平成28年11月28日	インフラメンテナンス国民会議設立



国民会議 会員  
1,400者 (企業552、行政599、団体126、個人123)

## インフラメンテナンス国民会議 事務局

※2018年5月15日時点

### 会長・副会長

〈会長〉 富山 和彦 株式会社経営共創基盤 代表取締役CEO

〈副会長〉 家田 仁 政策研究大学院大学 教授

### 実行委員会

#### 〈実行委員〉

阿部 雅人 株式会社ピーエムシー  
 岩佐 宏一 公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会  
 大島 邦彦 株式会社熊谷組  
 大堀 正人 株式会社日立ソリューションズ  
 片岡 信之 一般社団法人国土政策研究会  
 河野 一嗣 インクリメントP株式会社  
 小林 大 大日本コンサルタント株式会社  
 島田 孝司 株式会社富士通交通・道路データサービス

鈴木 泉 株式会社ガイアート  
 高澤 和幸 大日本印刷株式会社  
 高橋 千里 合同会社スマートウォーター  
 羽鳥 徹 富士ゼロックス株式会社  
 笹谷 達也 日鉄住金高炉セメント株式会社  
 皆川 勝 東京都市大学  
 吉田 典明 日本工営株式会社

### 企画部会

#### 〈部会長〉

鈴木 学 国土交通省

#### 〈幹事〉

塩田 昌弘 国土交通省  
 吉田 典明 日本工営株式会社

#### 〈部会委員〉

阿部 雅人 株式会社ピーエムシー  
 小林 大 大日本コンサルタント株式会社  
 島田 孝司 株式会社富士通交通・道路データサービス  
 鈴木 泉 株式会社ガイアート  
 高橋 千里 合同会社スマートウォーター

### 広報部会

#### 〈部会長〉

小林 大 大日本コンサルタント株式会社

#### 〈幹事〉

高澤 和幸 大日本印刷株式会社

#### 〈部会委員〉

田子 裕子 大日本印刷株式会社  
 横山 隼佑 日本工営株式会社  
 武田 大輔 株式会社インテグレートAMS  
 高橋 至 国土交通省  
 森田 早紀 国土交通省  
 永田 善裕 福美建設株式会社  
 土田 智 株式会社福山コンサルタント  
 那珂 通大 二チレキ株式会社  
 福田 隼登 国土交通省

## 公認フォーラム

革新的技術		自治体支援		技術者育成		市民参画		海外市場展開	
〈フォーラムリーダー〉 鈴木 学 国土交通省		〈フォーラムリーダー〉 鈴木 学 国土交通省		〈フォーラムリーダー〉 鈴木 泉 株式会社ガイアート		〈フォーラムリーダー〉 皆川 勝 東京都市大学		〈フォーラムリーダー〉	
北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	四国	中国	九州	沖縄
〈フォーラムリーダー〉 横田 弘 北海道大学	〈フォーラムリーダー〉 石川 雅美 東北学院大学	〈フォーラムリーダー〉	〈フォーラムリーダー〉 丸山 久一 長岡技術科学大学	〈フォーラムリーダー〉 原田 和樹 玉野総合ｺﾝｺﾞｸﾄ	〈フォーラムリーダー〉 片岡 伸之 国土政策研究会	〈フォーラムリーダー〉 谷田部 龍一 愛媛大学	〈フォーラムリーダー〉 藤井 堅 広島大学	〈フォーラムリーダー〉 日野 伸一 九州大学	〈フォーラムリーダー〉 有住 康則 琉球大学

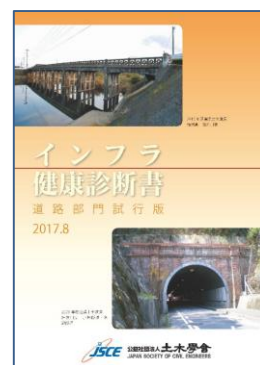
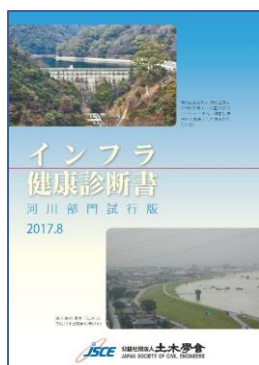
# 土木学会によるインフラ健康診断の取組

## ～「2017インフラ健康診断書（試行版）」～

土木学会は、『社会インフラ健康診断』特別委員会が中心となり、2016年5月に公表した「インフラ健康診断書（道路部門試行版）」に引き続き、「2017インフラ健康診断書（試行版）」を公表しました。

2016年度は、道路部門（橋梁、トンネル、路面（舗装））を対象とたが、2017年度は、道路部門（橋梁、トンネル）に加え、河川部門（堤防、河川構造物、ダム本体）、下水道部門（管路）の評価を実施し、全体概要版と各部門の健康診断書を作成し、今後は、社会インフラ全般を対象に行っていくとのことです。

インフラの健康状態が少しでも改善に向かうよう、インフラメンテナンス国民会議としても活動に取り組んでまいります。



### 【河川部門（試行版）の診断結果】

施設	施設の健康度	施設の維持管理体制	施設の健康度・維持管理体制の解説
堤防	C	➡	【健康度】 少なくない数の施設で変状が進行し、早めの補修が必要な状況 【維持管理体制】 現状の管理体制が改善されない限り、健康状態が悪くなる可能性がある状況
河川構造物	C	➡	【健康度】 少なくない数の施設で変状が進行し、早めの補修が必要な状況 【維持管理体制】 現状の管理体制が改善されない限り、健康状態が悪くなる可能性がある状況
ダム本体	B	➡	【健康度】 ある程度の施設で、変状が進行している状況 【維持管理体制】 現状の管理体制が改善されない限り、健康状態が悪くなる可能性がある状況

施設の健康度				
A 健全	B 良好	C 要注意	D 要警戒	E 危機的
ほとんどの施設で変状が生じていない状況	ある程度の施設で、変状が進行している状況	少なくない数の施設で変状が進行し、早めの補修が必要な状況	多くの施設で変状が顕在化し、補修などの対応が必要な状況	全体的に変状が著しく、緊急な対応が必要な状況

### 【道路部門（試行版）の診断結果】

施設	施設の健康度	施設の維持管理体制	施設の健康度・維持管理体制の解説
堤防 橋梁	C	➡	【健康度】 多くの施設で劣化が顕在化し、補修・補強などが必要な状況 【維持管理体制】 現状の管理体制が続けば、健康状態が改善に向かうと考えられる状況
トンネル	D	➡	【健康度】 多くの施設で劣化が顕在化し、補修・補強などが必要な状況 【維持管理体制】 現状の管理体制が改善されない限り、健康状態が悪くなる可能性がある状況

施設の健康度				
A 健全	B 良好	C 要注意	D 要警戒	E 危機的
ほとんどの施設で劣化が生じていない状況	ある程度の施設で、劣化が進行している状況	少なくない数の施設で劣化が進行し、早めの補修が必要な状況	多くの施設で劣化が顕在化し、補修・補強などが必要な状況	全体的に劣化が著しく、緊急な対応が必要な状況

### 【下水道部門（試行版）の診断結果】

施設	施設の健康度	施設の維持管理体制	施設の健康度・維持管理体制の解説
管路	C	➡	【健康度】 多くの施設で劣化が顕在化し、補修・補強などが必要な状況 【維持管理体制】 現状の管理体制が改善されない限り、健康状態が悪くなる可能性がある状況

施設の健康度				
A 健全	B 良好	C 要注意	D 要警戒	E 危機的
ほとんどの施設で劣化が生じていない状況	ある程度の施設で、劣化が進行している状況	少なくない数の施設で劣化が進行し、早めの補修が必要な状況	多くの施設で劣化が顕在化し、補修・補強などが必要な状況	全体的に劣化が著しく、緊急な対応が必要な状況

※各部門で同じ尺度を用いて診断されていますが、部門間で比較出来るものではなく、部門毎の特性を踏まえて解釈する必要があります。

## (2) 運営

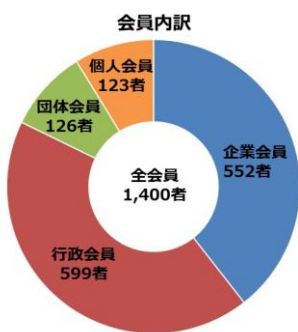
国民会議の目的の実現に向け、平成29年度より事業計画を策定し、毎月の実行委員会の開催のもと、自立的な活動に取り組んだ。活動に対する期待も高まり、設立当初、199者だった会員も2年弱で1,330者に増加した。

さらに、全国10ブロックにおいて地方フォーラムを設立し、全国的な活動基盤を確立した。

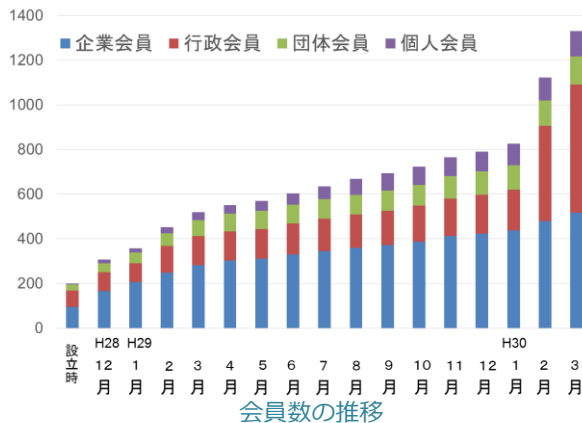
### ◎ 会員の状況 (H30.5.15時点)

- 会員は1,400者 (うち、企業：552者 行政：599者 団体：126者 個人：123者)
- 地方での活動体制が整備され、今後も更なる活性化が期待される

会員種別	現在 (H30.5.15)	設立時 (H28.11.28)	増加数
企業会員	552	95	457
行政会員	599	73	526
団体会員	126	27	99
個人会員	123	4	119
計	1,400	199	1,201



会員の内訳

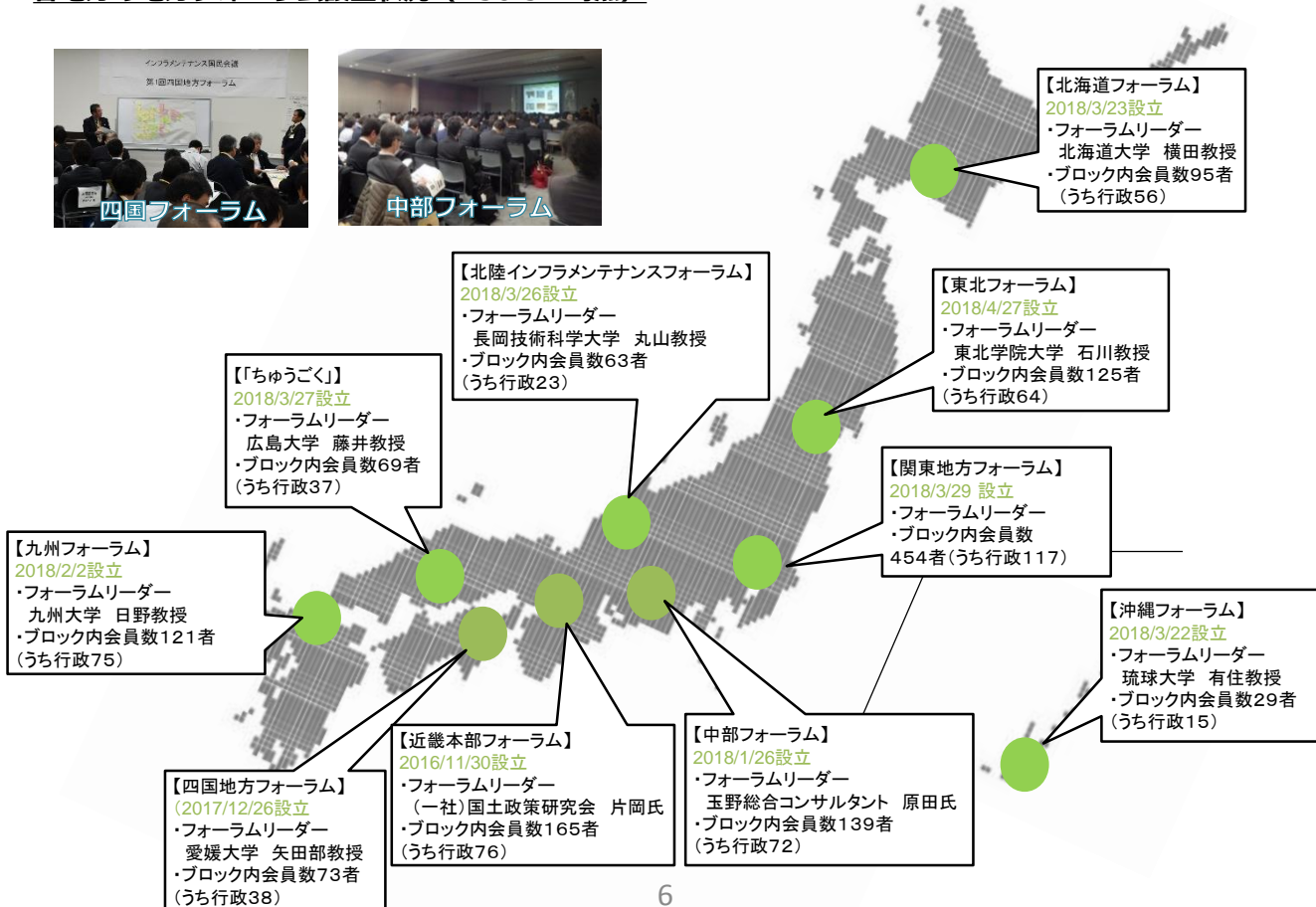


会員数の推移

### ◎ 全国への拡がり

- H29夏頃より準備会を各地で開催、各地方フォーラムの体制 (フォーラムリーダー等) や今後の方針等を検討
- 全国ブロック (北海道、東北、関東、北陸、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄) で地方フォーラム設立。

#### 各地方の地方フォーラム設立状況 (H30.5.1時点)





### (3) 活動概要 ～革新的技術の発掘と社会実装～

革新的技術の開発とその社会実装を実現するため、国民会議の取り組みのあり方について模索を続けた。

会員自治体の課題や会員企業等の有する技術・サービスを技術マップに整理、重点テーマを選び、ニーズ解決型のメンテソリューションやセミナー、ピッチイベント等を企画し、現場試行や実証実験などの官民連携等を生み出してきた。

今後、これらの取り組みを深化させ、革新的技術の更なる発掘や社会実装（ビジネス化）に結びつけていくため、地方フォーラムを中心に活動の展開を図る。

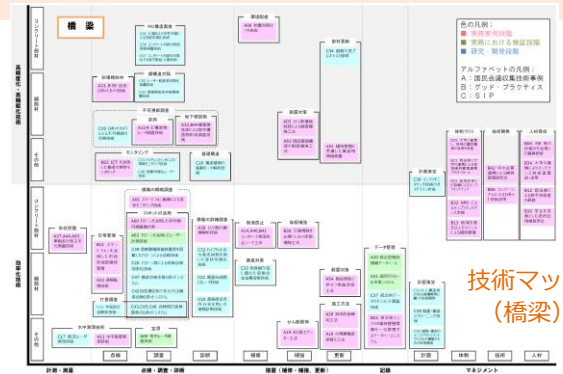
#### <革新的技術フォーラム>

##### ◎ 技術マップの作成・共有

###### <概要>

- 施設管理者の課題に対する既存技術・サービス等を国民会議民間会員等から集約。
- 集約した技術について、マネジメントサイクルの段階（点検・診断・措置・記録・マネジメント）別に分類し、施設別にマッピング。

(対象施設) ①橋梁 ②舗装 ③河川 ④ダム ⑤上水道  
⑥下水道 ⑦港湾 ⑧公園・街路樹  
⑨庁舎等建築物



##### ◎ 道路診断の自治体現場に於ける実践事例セミナー

<日時・場所> 平成29年5月22日(月) 富士通デジタルトランスフォーメーション・センター

<参加者> 約400名(本会場; 約150名、テラト会場; 計約100名、U/Aセミナー; 約150名)

###### <プログラム>

国土交通省取組紹介、道路舗装診断技術紹介(4社)、自治体取組紹介(3自治体)、総評

###### <概要>

- 日常パトロール等で道路路面性状を効率的に把握し、改修計画の優先度判定等に活用できる7技術を取り上げ、**現場での実践事例の紹介と技術比較を行うセミナーを東京の他10のサテライト会場などで開催。**
- 取り上げた7技術の精度・運用性等について**特性整理表を作成。**



特性整理表

##### ◎ 公共建築物のメンテソリューション

<日時・場所> 平成29年6月9日(金) 国土交通省会議室

<参加者> 約60名(自治体6名、民間企業等42名、建築研究所、実行委員、国土交通省、文部科学省)

###### <プログラム>

趣旨説明、国の施設の取組、自治体の施設管理の現状、建築物の点検におけるドローンの活用、民間企業等からの技術のプレゼン、討論、各班発表、総括

###### <概要>

- **公共建築物のメンテナンスの効率化を図る技術をテーマに革新的技術フォーラムを開催**し、自治体の課題や民間の技術開発動向について議論。
- 今後、本フォーラムでの議論を踏まえて、公共建築物のメンテナンスの課題を解決する技術の活用による自治体等の施設管理者の課題解決に向けて、さらに**幅広く活用可能な技術について議論。**



(テーマ) ①自治体の課題解決への取組 ②民間における技術開発の取組 ③今後のフォーラムの展開について

### (3) 活動概要 ～革新的技術の発掘と社会実装～

#### <革新的技術フォーラム>

#### ◎ インフラの未来を考えるワークショップ

<日時・場所> 平成29年9月5日(火) 富士ゼロックス(株) お客様共創ラボラトリー(横浜)

<参加者> 約70名 (実行委員による招待参加者、国民会議会員、IoT推進ラボ会員、事務局)

<プログラム>

本日の進め方の説明、キーノートスピーチ、ワークショップ(セッション1~4)、各班からの発表、本日のまとめ

<概要>

- **社会インフラの未来の姿に向けて、必要とされる革新的技術やオープンデータを見出し、技術開発や技術融合に結びつけていく**ため、多様な背景を持つ参加者が集まり、社会インフラの未来シナリオの作成に向けて本WSを実施。
- 国土交通省の政策ベンチャー2030にも紹介。

(未来シナリオの検討プロセス)

未来がイメージできる  
キーノートスピーチ

チームに分かれて  
未来の姿を検討

未来のプロトタイプ  
作成

未来シナリオ  
の作成



#### ◎ 「AI時代のインフラメンテナンスとビッグデータのあり方」セミナー

<日時・場所> 平成29年10月16日(月) 富士通デジタルトランスフォーメーション・センター

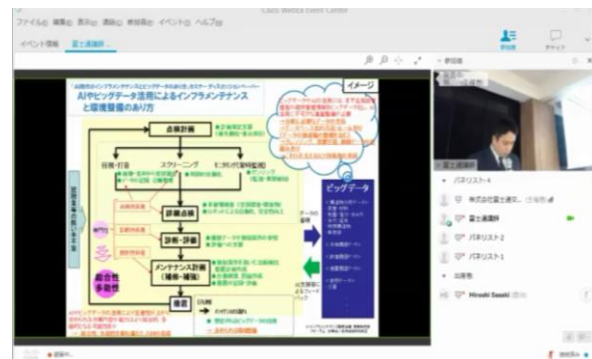
<参加者> 約500名 (Webセミナーを含む)

<プログラム>

開会挨拶、①国の動向に関する話題提供、②ビッグデータの活用求められる視点に関する特別講演、③インフラメンテナンスにおけるビッグデータ活用の最新技術紹介、④ビッグデータ活用に向けた自治体等の取り組み紹介、質疑応答

<概要>

- AI時代を迎えるにあたり、ビッグデータを扱う施設管理者や技術開発に携わる企業等に求められる視点やビッグデータ活用のための環境整備のあり方を明らかにし、今後の企業連携や官民連携のきっかけとするためのセミナーを開催。
- 良質で大量のデータが深層学習に必要であること、教師データを産学官で連携して整備する必要性、AIを活用した「人の判断」支援による生産性向上の方向性等を共有。



Webセミナー配信状況

## (3) 活動概要 ～革新的技術の発掘と社会実装～

### <地方フォーラム（近畿フォーラム）>

#### ◎ 第1回フォーラム

<日時・場所> 平成29年1月31日(火)

<参加者> 138名（地方自治体23名、民間企業等54社96名、事務局10名、国土交通省7名、メンター2名）

##### <概要>

- 施設管理者が抱える4つのカテゴリー、全8テーマの課題について班別討議。
- 近畿本部では、着実にマッチングの機会を設けていくことを確認。

##### (テーマ)

- ・ 橋梁点検の効率化技術（阪南市）
- ・ 道路橋点検における近接目視（滋賀県建設技術センター）
- ・ 歩道橋・地下道・アンダーパスにおける化粧類裏の近接目視（大阪市）
- ・ 下水道管渠の点検診断の効率化技術（滋賀県）
- ・ 雨天時侵入水対策の定量的な効果検証手法（奈良県）
- ・ 道路のり面危険把握（奈良県）
- ・ 除雪機械関係（滋賀県）



会場の様子

#### ◎ 第2回フォーラム

<日時・場所> 平成29年3月9日(木)

<参加者> 55名（地方自治体10名、民間企業等23社29名、事務局10名、国土交通省4名、メンター2名）

##### <概要>

- 第1回フォーラムの課題8テーマの内、3テーマについて班別討議。
- 企業会員から民間企業が有する技術について情報が提供され、官民で活発に討議。

##### (テーマ)

- ・ 橋梁点検車が使えない幅員の狭い橋梁における効率的な点検技術（阪南市）
- ・ 桁下空間に制約がある橋梁における効率的な点検技術（滋賀県建設技術センター）
- ・ 圧送方式の下水管渠における効率的な点検技術（滋賀県）



会場の様子

#### ◎ 第3回フォーラム

<日時・場所> 平成29年3月22日(水)

<参加者> 63名（地方自治体9名、民間企業等31社38名、事務局8名、国土交通省6名、メンター2名）

##### <概要>

- 第1回フォーラムの課題8テーマの内、3テーマについて班別討議。
- 企業会員から民間企業が有する技術について情報が提供され、官民で活発に討議。

##### (テーマ)

- ・ 化粧板等で覆われているコンクリート構造物の効率的な点検技術（大阪市）
- ・ 大口径のコンクリート下水管渠における効率的な点検技術（大阪市）
- ・ 道路のり面における安定度評価を行うための効率的な点検技術（奈良県）



会場の様子

# (3) 活動概要 ～革新的技術の発掘と社会実装～

## <地方フォーラム（近畿フォーラム）>

### ◎ 第1回ピッチイベント

<日時・場所> 平成29年7月28日(金) オリックス本町ビル3階大会議室

<参加者> 191名（行政等28名、民間企業等140名、メンター3名、事務局等20名）

<概要>

- 第1～3回フォーラムで取り上げたテーマ（課題）の中から「下水道関係」「橋梁関係」に関する9技術について、民間企業等によるプレゼンテーション。
- 提案された技術の中から、施設管理者等のニーズに適應する可能性の高い技術について、フィールド実験実施することを決定。



会場の様子

### ◎ 第4回フォーラム

<日時・場所> 平成29年8月9日(水)

<参加者> 66名（地方自治体12名、民間企業等37名、事務局11名、国土交通省5名、メンター1名）

<概要>

- 施設管理者が抱える維持管理の課題4テーマについて班別討議。

(テーマ)

- ・路面下空洞厚さ調査を支援する技術
- ・法面点検（目視点検）を支援する技術
- ・常時水没している構造物の点検の効率化技術
- ・化粧板下の清掃、滞水除去技術



会場の様子

### ◎ 橋梁の近接目視点検他の実証実験

<日時・場所> 平成29年10月12日(木) 阪南市桑畑地先（2号橋）

<参加者> 78名（地方自治体23名、民間企業等36名、事務局19名等）

<概要>

- 第1回ピッチイベントでのプレゼンなどを経て阪南市のニーズ（課題）とNME研究所のシーズ（技術）の実証実験のマッチングが成立。



阪南市

- 桁下条件により、高所作業車の使用、梯子・足場の設置が困難な橋梁が存在
- 長時間の通行止めをせずに、これらの橋梁を近接目視点検できる技術が必要



マッチングが成立

- 短時間の通行止め間に検査路を設置、設置後は車輛通行可能とする点検技術を保有
- 設置した検査路は人力で移動が可能、損傷箇所容易に近接して点検可能



NME  
研究所

- 阪南市が管理する橋梁で適用性や適用条件等を確認する実証実験を実施。
- 条件に対する適用性を確認した一方、改めて確認された改善点について更なる改良を目指すこととなった。



実証実験の様子



安全性・作業性等を  
阪南市職員らが確認

### ◎ 第2回ピッチイベント

<日時・場所> 平成29年10月26日(木) 建設技術展2017近畿 マイドームおおさか8階第3会議室

<参加者> 158名（地方自治体21名、民間企業116名、メンター2名、国土交通省7名、事務局12名）

<概要>

- 第4回フォーラムで取り上げられた4テーマに対し、民間企業が保有する11のシーズ技術についてプレゼンテーション。
- 提案された技術の中から、施設管理者等のニーズに適應する可能性の高い技術について、フィールド実験実施することを決定。



会場の様子

## (3) 活動概要 ～革新的技術の発掘と社会実装～

### <地方フォーラム（中部・北陸地方における試行的な取組）>

#### ◎ 中部フォーラム（第1回）

<日時・場所> 平成28年11月2日(水) 中部地方整備局 会議室

<参加者> 66名（自治体7名、民間企業等42名、国土交通省10名、事務局7名）

##### <プログラム>

国民会議概要説明、フォーラム概要説明、自治体ピッチ（ショートプレゼン）、班別討議①、民間企業等による解決策等のピッチ（ショートプレゼン）、班別討議②、発表、まとめ

##### <概要>

- 4つのテーマについて班別討議を行い、各自治体の課題の深掘り・共有。



班別討議の様子

##### (テーマ)

- ① 浜松市の道路舗装の効率的な点検手法と情報活用・管理について（静岡県浜松市）
- ② 道路舗装の簡易な点検調査手法、交通量等に基づく対策の優先順位策定手法、実質的な道路舗装の修繕計画策定手法について（岐阜県川辺町）
- ③ 橋梁の点検診断に関する市町村職員の技術研修、技術支援の仕組み構築について（岐阜県中津川市）
- ④ 土木技術者不在の小規模な市町村で職員の維持管理業務の効率化に寄与するシステムについて（岐阜県富加町）

#### ◎ 中部フォーラム（第2回）

<日時・場所> 平成28年12月20日(火) 中部地方整備局 会議室

<参加者> 96名（自治体9名、民間企業等30名、国土交通省4名、メンター2名、傍聴者41名、事務局10名）

##### <プログラム>

国民会議概要説明、フォーラム概要説明、自治体ピッチ（ショートプレゼン）、班別討議、発表、まとめ

##### <概要>

- 4テーマ全てにおいてニーズとシーズのマッチングがなされ、後日の現場実証を決定。



班別討議の様子

##### (テーマ)

- ① 管理水準に応じた効率的な道路舗装の点検診断技術と情報活用（静岡県浜松市／岐阜県川辺町）
- ② 橋梁点検・診断に関する技術的アドバイスの仕組みづくり（岐阜県中津川市／岐阜県富加町）
- ③ 地域と連携した街路樹の剪定・植栽管理の効率化技術（三重県桑名市／愛知県名古屋市）
- ④ 下水管渠の点検診断の効率化技術（愛知県岡崎市／愛知県豊橋市）

#### ◎ 北陸ミニフォーラム

<日時・場所> 平成29年2月14日(火) 北筑地方整備局新潟事務所 会議室

<参加者> 約40名（3市、民間企業、団体、事務局（国土交通省）等）

##### <プログラム>

国土交通省からの説明、自治体ピッチ、班別討議、発表、まとめ

##### <概要>

- **三条市・十日町市・見附市の3市が地域のインフラメンテナンスに係る課題とその解決策について、民間企業や団体と議論。**
- 各市とも**人員・技術・予算の面での課題**に加え、**積雪寒冷地という条件下での管理の難しさ**に対する解決策について提案。

##### (テーマ)

- ① 生活道路における舗装補修の管理水準の明確化（新潟県三条市）
- ② 点検結果から想定される橋梁修繕に関する技術的アドバイス（新潟県十日町市）
- ③ 下水道管渠の点検診断に関する技術力向上（新潟県見附市）



会場の様子



班別討議の様子

# (3) 活動概要 ～革新的技術の発掘と社会実装～

## ◎ 「第9回 SIPインフラ社会実装促進会議

### 社会インフラのマネジメントにイノベーションを—新技術導入への挑戦—

<日時・場所> 平成30年2月8日(木) TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

<参加者> 約400名

#### <開催概要>

新技術の現場導入について、技術開発、導入、場の提供に取り組む研究開発側・施設管理側のそれぞれの立場から、現状や課題を紹介いただくため、「SIPインフラ維持管理・更新・マネジメント技術」及び「インフラメンテナンス国民会議」の共催による公開シンポジウムを開催。

#### <開催概要>

SIP技術の社会実装に向けて

##### ① 新技術のビジネス化

(慶應義塾大学 大学院 経営管理研究科 教授 大林 厚臣)

##### ② 地方自治体におけるアセットマネジメント技術の導入に向けたシナリオ

(株) 価値総合研究所 パブリックコンサルティング 第2事業部 主席研究員 井上 陽介)

インフラメンテナンス国民会議における取組み

##### ① 設立以降1年間の取組みと今後の地方展開について

(国土交通省 総合政策局 事業総括調整官 鈴木 学)

##### ② 施設管理者の課題を真に解決する技術の発掘～開発～社会実装を目指して!

(インフラメンテナンス国民会議実行委員、近畿本部フォーラム・リーダー、(一社)国土政策研究会 理事 兼 関西支部 事務局長 片岡 信之)

インフラ維持管理における革新的技術導入への取組み

##### ① インフラメンテナンス国民会議:

・新技術による舗装のメンテナンスサイクル構築に向けて

(浜松市 土木部 道路保全課 保全グループ長 鈴木 康二)

・新技術導入の課題とその解決策における横展開の必要性について

(品川区 防災まちづくり部 道路課長 多並 知広)

##### ② SIPインフラ:

・東北地方における産学官連携の取組み

(東北大学大学院工学研究科インフラマネジメント研究センター センター長 久田 真)

・山形DBMYの取組み

(山形県 県土整備部 道路保全課 道路メンテナンス・市町村道専門員 工藤 重信)

・地域の社会経済システムを支えるインフラ維持管理システムの開発と実装

(鳥取県 県土整備部 技術企画課 課長補佐 藤井 優)

全体討議



会場の様子



SIPイワ藤野プログラムディレクター 開会挨拶



全体討議

- ・最新の技術開発動向等を多数の施設管理者との間で情報共有
- ・これらを通じ、現場試行・実証実験等の取組が本格化

# (4) 活動概要 ～企業等の連携の促進～

インフラメンテナンスにイノベーションをもたらすための異分野との交流や企業間の連携を促進する取り組みのあり方について模索を続けた。

インフラメンテナンス分野における会員間の情報共有を図る交流会を開催、企業同士あるいは企業と施設管理者等による新たな技術開発や製品化に向けた具体的な取組を促進するピッチイベントや技術マッチングアイデアコンテスト等を企画し、会員企業同士の連携によるマッチングの事例を生み出してきた。

今後も会員企業のニーズにあわせ、企業連携を促進する活動の展開を図る。

## <広報部会>

### ◎ 第3回交流会「モビリティ × インフラメンテナンス」

<日時・場所> 平成29年10月27日(金) 国土交通省会議室

<参加者> 71名(国民会議会員、事務局(実行委員、広報部会委員、国土交通省))

<プログラム> ショートプレゼン、パネルディスカッション、本日のまとめ

#### ショートプレゼンの概要

『MMSが実現するSociety5.0の世界』三菱電機(株) 社会システム第二部 課長 小林 弘幸 氏

『自動運転バス・トラックにおけるインフラへの期待』先進モビリティ(株) 代表取締役社長 青木 啓二 氏

『モビリティ×インフラメンテナンスに求められる「データの品格®」とは』(株)富士通交通・道路データサービス 代表取締役社長 島田 孝司 氏

#### <概要>

- インフラの老朽化問題の解決に意欲的な企業などを対象として人的交流の促進を図る交流会を開催した。
- 「超スマート社会」におけるインフラメンテナンスを念頭にモビリティ事業者をお招きしショートプレゼンを頂き、個々の取組のご紹介の中から「**超スマート社会**」における**インフラメンテナンスの未来像や新たな課題**を伺い知ることができ、改めて**本交流回の参加者自らが「超スマート社会」におけるプレイヤー**であることを共有。
- 交流会終了後には懇親会を実施し、普段交流の機会が少ない異業種間でのインフラメンテナンスに関する意見交流。



パネルディスカッションの様子

## <革新的技術フォーラム>

### ◎ 技術マッチングアイデアコンテスト (第1回)

- 企業同士あるいは企業と施設管理者等による新たな技術開発や製品化等に向けた協議・企画・試作等の具体的な取組(マッチング)を促進することを目的に実施
- 4つのテーマについて提案を募集(募集期間: H29.7.19~H29.9.15)
  - [1] 車載カメラによる道路の画像データの有効活用
  - [2] 地震後に役立つ「建物安全度判定サポートシステム(揺れモニ)」の様々な場面での活用
  - [3] 水を抜かずに防火水槽等を形状測定・点検する技術の効率化・高度化
  - [4] 3Dスキャナーを利活用したインフラメンテナンス技術

<b>1 車載カメラによる道路の画像データの有効活用</b> 【インクリメントP(株)】 5mおきの道路空間画像 テーマ提案企業は、全国の道路を網羅的・連続的に走行し、位置情報を持った大量の道路画像データを所蓄 【大量の画像データの活用方法は、ないか?】 【効率的な画像データの収集方法は、ないか?】 期待するアイデア ・大量の画像データの新たな利活用方法 ・効率的な画像データ収集手法 ・過去と現在の画像データを比較することによる新たなサービスの提供 など	<b>2 地震後に役立つ「建物安全度判定サポートシステム(揺れモニ)」の様々な場面での活用</b> 【(株)NTTファシリティーズ】 テーマ提案企業は、加速度センサーを建物各階に設置し、「変形」「歪み」「傾斜」「揺れの強さ」「揺れ方」の5つの指標を総合的に判定し、建物の安全性を判断できるシステムを開発 【日本の施設メンテナンスに活用できないか?】 【「ビル以外の建物やインフラ施設等に活用できないか?】 期待するアイデア ・本システムを平常時の建物メンテナンスに活用できる具体的な方法 ・本システムをビル等建物以外の施設にも活用できる具体的な場面の提案 など	<b>3 水を抜かずに防火水槽等を形状測定・点検する技術の効率化・高度化</b> 【(株)M・T技研】 現状、防火水槽等はその形状から記録がない側がある。テーマ提案企業は、水を抜かずに防火水槽等の形状を①地中レーダーや②水中音波探査機を活用して把握し、劣化状況を③遠隔操作水中カメラシステムを用いて点検する手法を開発 【①の精度向上したい】 【②は自動運転センサー画像のため解像度が低い】 【③デジタルマップ上に点検結果を表示したい】 期待するアイデア ・防火水槽等の外寸測定誤差を小さくする技術 ・「水が入った」防火水槽等内のひび割れや断面欠損を的確に把握できる画像撮影技術 ・各施設の調査結果を低コストでデジタルマップ上に表示する技術 など	<b>4 3Dスキャナーを利活用したインフラメンテナンス技術</b> 【計測ネットサービス(株)】 テーマ提案企業は、「3D surface」という3次元自動計測機能の3次元スキャン機能を有し、計測エリアを面(メッシュ)で管理してメッシュの歪み量を色で視覚化するシステムを開発 【広範囲や高精度な計測を行う際にデータ処理に長時間を要する】 【処理できる新たなフィールドはないか?】 期待するアイデア ・「3D surface」による高精度なスキャン結果を高速に処理する技術や手法 ・「3D surface」を利活用できる具体的な場面 など
--	---	---	--

募集4テーマの概要

## ◎ 革新的河川管理プロジェクト

- 最新の技術・ノウハウを持ち寄りスピーディーに実装化を図る開発手法であるオープン・イノベーションにより、従来の技術的枠組みにとらわれない新しい河川管理を目指した『革新的河川管理プロジェクト』を平成28年11月にスタート
- 「危機管理型水位計」、「陸上・水中レーザードローン」、「全天候型ドローン」の3テーマを対象に、現場ニーズに基づいた要求水準（リクワイアメント）を明示し、官主導でピッチイベント等を実施して企業間の協働を促進し、危機管理型水位計は24チーム（41者）、陸上・水中レーザードローンは2チーム（6者）、全天候型ドローンは2チーム（6者）のマッチングを実現
- 技術開発の過程では現場実証フィールドの提供や新たな基準類の整備を実施



### 危機管理型水位計

#### 課題

- ・初期投資がかかる
  - ・維持管理コストがかかる
- 水位計普及の隘路

洪水時の水位観測に特化した  
低コストの水位計を実用化

#### Before



- 常時観測  
施設規模大→初期投資大  
データ量多→通信コスト大

#### After



- 洪水時のみ観測  
機器の小型化・通信コスト縮減等によるコスト低減が実現  
従来機器の1/10以下に  
(100万円/台以下)

全国1万箇所の設置に向け予算措置済

水害危険箇所毎に水位情報を提供

### 陸上・水中レーザードローン

#### 課題

- ・現在のドローン測量では植生下は×
- ・赤色レーザーでは水面下の測量は×

面的連続データによる河川管理へ

#### Before



- 航空測量  
搭載機器重量大→ドローンへ搭載不可
- ドローン測量  
レーザー密度低→植生下計測困難

#### After



- 搭載機器の軽量化 (1/50)  
ドローンへの搭載可能  
(低空から高密度測量)  
+より高性能化  
(水底も可視化)

測量マニュアルを更新・現場導入へ

3次元データによる変状把握等の管理の高度化

### 全天候型ドローン

#### 課題

- ・台風接近時等に現地確認手段が不足

天候の完全回復を待たずに  
強風下でも状況把握

#### Before

- 風速数mで飛行不可  
※H23年紀伊半島水害では  
2日間ヘリ飛行できず

#### After



- 風速20m程度の  
強風下でも飛行可能

製品化済み  
全国の地方整備局の配備へ

強風時の現地把握が可能

※このプロジェクトは、インフラメンテナンス国民会議 革新的技術フォーラム準備会の取組みの一つとして水管理・国土保全局が実施するものです。

- ・企業が保有する技術やシーズ、ニーズについて企業間の情報交換が進展
- ・これらを通じ、具体的な製品開発が進行中



## (5) 活動概要 ～地方自治体への支援～

インフラメンテナンスにおける自治体の課題とフォーラムによる支援のあり方について模索を続けた。

そのため、自治体の課題や取り組みを紹介、意見交換等を行う場を開催し、包括的民間委託・技術者派遣、新技術導入等の新たな民間ノウハウの活用等をテーマとしたフォーラムやセミナー等を開催した。

今後、自治体の課題・ニーズに対してきめ細やかな対応を図るため、地方フォーラムにおける活動の充実や、自治体の取組のベストプラクティス等の横展開を図る。

### <自治体支援フォーラム>

#### ◎ 自治体支援フォーラム

<日時・場所> 平成29年2月21日(火) 富士ゼロックス(株) お客様共創ラボラトリー(横浜)

<参加者> 62名(国交省、実行委員、自治体、民間企業等)

<概要>

- 自治体側から4つのテーマ(インフラメンテナンスの課題や取組)についてのプレゼンを行い、質疑応答と班別討議を行い、**今後の国民会議の活動の方向を模索**。

- (テーマ) ①自治体における技術者育成 ②県有建築物の劣化診断調査  
③ちばレポを活用したメンテナンスへの市民参画  
④自治体における包括的民間委託の取組み紹介



#### ◎ インフラ老朽化時代におけるレジリエントな郡山を目指して

<日時・場所> 平成29年6月2日(金) 郡山市役所(現地視察: 郡山市内)

<参加者> 74名(メンター4名、自治体23名、民間企業等38名、国土交通省9名)

(メンター) 日本大学 岩城 一郎 氏、会津大学 石橋 史朗 氏  
東日本高速道路(株) 七五三野 茂 氏、富山市 植野 芳彦 氏

<プログラム> 郡山市長挨拶、趣旨説明、現地視察、班別討議、各班発表、総評、総括

<概要> ○ 個別の自治体の問題を対象に丸ごと支援する新たな取組として、**出前形式でのフォーラムを郡山市で開催**。

- 今後、新技術の導入に向けた現場実証や地域での産学官民の取組の深化などの**郡山市での新たな取組につなげる**とともに、**優良な取組の他地域への展開を検討**。

- (テーマ) ①個別施設計画の計画策定と実施(橋梁) ②個別施設計画の計画策定と実施(道路舗装)  
③道路維持補修業務における地域建設業の連携やノウハウの活用方法の模索 ④市民参画の可能性



#### ◎ 新技術導入研究・意見交換会

<日時・場所> 平成29年12月18日(月) 品川区役所

<参加者> 約62名(メンター2名、自治体32名(18自治体)、国民会議運営・国土交通省28名)

(メンター) 土木学会 塚田 幸広 氏、品川区 多並 知広 氏、千葉市 大森 信人 氏  
東京都市大学 皆川 勝 氏、国土交通省 鈴木 学 氏

<プログラム> 趣旨説明、取組紹介(土木学会、先進自治体)、班別討議、意見交換会、まとめ

<概要> ○ 自治体同士で新技術等導入における経緯、課題、解決策等を共有し、課題を解決するアイデア等を生み出す**フラットな交流の場として「新技術導入研究・意見交換会」を品川区で開催**。

- 今後、維持管理分野への新技術導入において各自治体が抱える課題を整理し、**各課題を解決する取組事例について研究を深め、横展開**。



## (5) 活動概要 ～地方自治体への支援～

### <技術者育成フォーラム>

#### ◎ 三方よしのインフラメンテナンス in 福島

<日時・場所> 平成29年3月7日(火) ウェディング エルティ (福島市)

<参加者> 約150名 (大学、自治体、民間企業等、市民)

(パネリスト) 福島県 加藤木 氏、日本大学 教授 岩城 氏、  
NPO法人わ トライアスロンアカデミー福島 菊池 氏、寿建設(株) 森崎 氏  
(株)ガイアート 幸野 氏、国土交通省 安原 氏

#### <概要>

- 包括的民間委託等の民間のノウハウを活かす手法について、行政、企業、地域のそれぞれの立場からの視点でのパネルディスカッション。
- パネルディスカッションでは、イメージ・評価を上げて人材不足を解消、女性の参画の期待の意見、特に市民の視点からと、地元出身トライアスロンアスリートのパネリストからの新鮮な意見で盛り上がり、会場からも積極的な意見が続いた。



会場の様子



パネルディスカッションの様子

#### ◎ インフラメンテナンス技術者セミナー (第1回) 「インフラ点検技術での海外展開事例」

※海外市場展開フォーラムとの共同開催

<日時・場所> 平成29年12月19日(火) 日本経済大学大学院 (東京・渋谷)

#### <プログラム>

挨拶、特別講演、パネルディスカッションと会場トークセッション、閉会挨拶

#### 特別講演

『インフラ点検技術での海外展開事例』 NEXCO-West USA, Inc 取締役社長 松本 正人 氏

#### パネリスト

NEXCO-West USA, Inc 取締役社長 松本 正人 氏  
山口大学 名誉教授 宮本 文穂 氏  
国土交通省 総合政策局 国際建設管理官 天野 雄介 氏  
パシフィックコンサルタンツ(株) (株)パデコ出向) 松月 さやか 氏

#### <目的>

- 確実かつ効率的なインフラメンテナンスを実現する生産性革命プロジェクト「インフラメンテナンス革命」に積極的にチャレンジする人材を応援。

#### <概要>

- 企業、行政、学会、大学、学生と約100名が参加。
- パネルディスカッションでは、4人のパネリストによりそれぞれの立場からインフラメンテナンスの技術の伝承 (宮本氏) と海外事業の展開 (松本氏、天野氏) と人材育成 (宮本氏、松月氏) にフォーカスして議論。



特別講演の様子



女性技術者の海外体験談



会場トークセッション

## (5) 活動概要 ～地方自治体への支援～

### <関連する活動>

#### ◎ 社会資本の維持管理における包括的民間委託等の活用促進に向けた勉強会への参画

<日時・場所> 平成28年10月25日(火) 府中市保健センター分館 2階

<参加者> 国交省、勉強会参加自治体、国民会議会員

#### <概要>

- 国土交通省が主催する「社会資本の維持管理における包括的民間委託等の活用促進に向けた勉強会」の第5回勉強会に国民会議会員の希望者が出席、議論に参加。
- 勉強会参加団体が提示した4テーマについて、現況を整理したうえで具体案を模索。

#### (テーマ)

福島県；包括的維持管理に対する第三者評価の効率のかつ確実な収集方法  
 多賀城市；民間企業にインセンティブを確保してもらうための工夫  
 府中市；民間事業者の提案や参入などのためのノウハウの蓄積方法  
 三条市；リスク分担等を簡略した包括的維持管理契約手法について



会場の様子



班別討議の様子

#### 【社会資本の維持管理における包括的民間委託等の活用促進に向けた勉強会】

#### <概要>

- 包括的民間委託、共同処理等の検討や導入を行う地方自治体に対し、以下を目的とした勉強会を開催し、自治体の取り組みを促進。
  - ① 各自治体同士における横の情報共有や連携の促進
  - ② 各自治体の課題に対する改善方策の検討
  - ③ 全国の自治体に向けたグッドプラクティスの普及促進
- H27.9の発足以降、これまでに全8回の勉強会を開催（H30.3末時点）
- 勉強会の成果をH29.4に中間とりまとめ。
- 官民の意見交換を目的に第5回の勉強会では国民会議の会員の希望者が出席のもとで実施。



勉強会の様子

#### <主な検討課題>

- (1) メリットの発現条件
- (2) 性能要件設定方法（対象範囲、契約書、要求水準書）
- (3) 管理者と民間の間のリスクの分担方法（変更対応、総価・単価契約の分類）
- (4) 性能達成の確認方法 など

#### <勉強会メンバー>

委員	【座長】小澤一雅教授（東京大学工学系研究科） 堀田昌英教授（東京大学大学院新領域創成科学研究科） 水野高志氏（八千代エンジニアリング株式会社）
地方公共団体	福島県、滝沢市（岩手県）、多賀城市（宮城県）、府中市（東京都）、三条市（新潟県）、かほく市（石川県）、宇部市（山口県）、郡山市※（福島県）（※オブザーバー）
民間企業等	（第5回のみ）三井住友海上火災保険㈱、東京海上日動火災保険㈱ （第7回のみ）前田道路株式会社、福島県郡山地区建設業組合
事務局	国土交通省（大臣官房技術調査課建設技術調整室、総合政策局公共事業企画調整課・官民連携政策課、土地・建設産業局建設業課入札制度企画指導室、国土技術政策研究所建設マネジメント技術研究室）

- ・自治体の課題とこれらに対する優れた取組を自治体間で水平展開
- ・これらを通じ、自治体による新たな主体的な取組が開始

## (6) 活動概要 ～インフラメンテナンスの理念の普及～

インフラメンテナンスの理念を国民に幅広く普及するため、シンポジウム・イベント等の開催や、ホームページやSNSの活用などにより、インフラメンテナンスについての情報発信に取り組んだ。

関係6省庁の主催によるインフラメンテナンス大賞等における受賞案件について、シンポジウムやイベント、パネル展示を通じて紹介した。

また、会員間での理念や情報の共有を目的として、会員メルマガを隔週で発行した。

今後、これらの活動を更に展開し、国民や社会全体へのインフラメンテナンスの理念の普及に向けて取り組みを進めていく。

### <実行委員会・広報部会・事務局>

#### ◎ 会員メルマガの発刊

- 会員向けメルマガを隔週で発刊（Vol. 1～Vol.30）※H30.1.24時点
- 各種イベント等の開催結果、今後の予定、会員の取組等について情報発信

#### ◎ ポータルサイトの開設

URL：<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/im/>

- 国民会議の設立に至る背景・目的、事業内容等の紹介
- 各種イベント等に係る新着情報をお知らせ



HPのトップ画面

#### ◎ みんなで広報の推進（広報ツールの作成）

- 会員自らが、国民会議の会員募集、インフラメンテナンスならびに国民会議に対する共感や信頼等の価値向上を行うための広報ツール（①ウェブバナー、②A4版チラシ）を作成



#### ◎ インフラメンテナンス連携シンポジウム in 新潟 ～新たな産学官民連携による地域活性化の展開～

<日時・場所> 平成29年2月13日(月)

<参加者> 約270名（一般市民、大学、自治体、地元建設業者、国土交通省）

<プログラム> 基調講演、情報提供、パネルディスカッション

（基調講演）『地域で取り組むインフラ施設の長寿命化』長岡技術科学大学 教授 大塚（悟）氏  
 （情報提供）『インフラメンテナンス国民会議が目指すもの～インフラメンテナンス革命～』国土交通省 事業総括調整官 藤井氏  
 『農業水利とインフラメンテナンス』農林水産省 信濃川水系土地改良調査管理事務所長 高居氏  
 （パネリスト）長岡技術科学大学；教授 大塚氏、三条市；市長 國定氏、新潟県建設業協会；会長 植木氏  
 フリーアナウンサー；遠藤氏、国土交通省；事業総括調整官 藤井氏

#### <概要>

- インフラの戦略的な維持管理・更新とともに、地域の活力を維持・向上するための産学官民連携、具体的な市民参画の活動について考える初めてのシンポジウムを新潟で開催。
- 後援者、パネリストからインフラ面手念巢の着実な実施や、地域活性化のためインフラの多面性を生かす重要性について指摘。
- インフラメンテナンスのグッドプラクティスパネルを展示。



パネリストディスカッションの様子



グッドプラクティスパネルの掲示

## (6) 活動概要 ～インフラメンテナンスの理念の普及～

### <実行委員会・広報部会・事務局>

#### ◎ 第1, 2回交流会 (広報部会)

<日時・場所> 平成29年2月15日(水)、平成29年2月17日(金) 国土交通省会議室

<参加者> (2/15)47名、(2/17)42名 (国民会議会員企業・団体等)

#### <プログラム>

国民会議概要説明、フォーラムライトニングトーク、  
意見交換 (ワールドカフェ形式)

#### <概要>

- 会員企業や団体に国民会議の概要説明。
- **会員間の連携・交流を活発化させるために会員が抱えるインフラメンテナンスに対する課題認識、各社が国民会議でやりたいことを議論。**



会場の様子

(会員による国民会議への希望や意見の例)

- ・ 国民会議の場を活用してフィールド提供を受けられる機会を探して技術の現場試行に取り組みたい。
- ・ 地方の建設会社でもドローン等の新技術を活用し、点検業務等の分野に参加できる技術やノウハウを学びたい。
- ・ 地方自治体のニーズを把握するため、いずれは地方でのフォーラムを実施することが望まれる。

#### ◎ 土木学会「社会インフラ健康診断」説明会

※公益社団法人土木学会との共同開催

<日時・場所> 平成29年8月25日(金) 国土交通省会議室

<参加者> 約50名 (土木学会、国民会議会員21名、実行委員、広報部会、国土交通省)

#### <プログラム>

本日の進め方の説明、セミナー「土木学会の取組と社会インフラ健康診断」、  
セッション「インフラメンテナンスの普及に向けた連携について」、本日のまとめ

#### <概要>

- 土木学会が第三者機関としてインフラの健全状況を評価する「社会インフラ健康診断書」説明会を開催し、**老朽化の現状や、維持管理・更新の必要性や課題を広く国民に理解してもらうためにインフラメンテナンスの理念の普及に向けた連携について議論。**
- 今後、**国民会議は「社会インフラ健康診断書」を活用したインフラメンテナンスの広報活動等に取り組んでいく。**



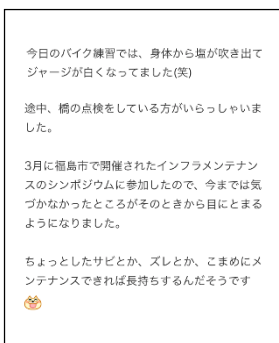
会場の様子



社会インフラ健康診断 (試行版)

### (会員の取り組み) SNSを活用した情報発信

- 「三方よしのインフラメンテナンス in 福島」にパネリストとして参加したトライアスロンアスリートの菊池日出子選手がインフラメンテナンスについてブログで情報発信



- ・ シンポジウム等の行事によって会員や多数の参加者との間で理念を共有
- ・ 会員数が設立時当初 (H28.11) から約7倍になるなど機運が醸成

## (6) 活動概要 ～インフラメンテナンスの理念の普及～

### ◎とちぎの未来を考えるシンポジウム ～インフラを守り、賢く使う地域活性化～

＜日時・場所＞ 平成30年2月1日(木)パーティとちぎ男女共同参画センターホール

＜参加者＞ 約300名(一般住民、自治体関係者)

＜概要＞ パネルディスカッションでは、講演者、パネリストからは「インフラの魅力や価値を地域が見いだし、観光や地域産業の活性化につなげることが重要」、「経済成長のためにはインフラメンテナンスをはじめ、地域密着型の産業が21世紀の基幹産業となる」といった指摘があった。

プログラム	講演者・講演テーマ
特別講演①	森 昌文氏 (国土交通省 技監) 「地域活性化におけるインフラの役割」
特別講演②	富山 和彦氏 ((株)経営共創基盤 代表取締役CEO インフラメンテナンス国民会議 会長) 「インフラ産業の革新と地方創生」
パネルディスカッション	「インフラを守り、賢く使う地域活性化」 パネリスト： 富山 和彦氏 ((株)経営共創基盤 代表取締役CEO) 河野 まゆ子氏 ((株)JTB総研ITソリューションズ 事業部 主任研究員) 工藤 敬子氏 ((有)フィールドイン 代表) 森 昌文氏 (国土交通省 技監) コーディネーター：柴田 正人氏 (下野新聞社 論説委員)



特別講演①



特別講演②



パネルディスカッション

### ◎おかやまの未来を考えるシンポジウム ～インフラを守り、賢く使う地域活性化～

＜日時・場所＞ 平成30年2月22日(木)山陽新聞社さん太ホール

＜参加者＞ 約300名(一般住民、自治体関係者)

＜概要＞ 特別講演では、土木における先人の努力の上に現在の発展があり、これを未来へ引き継いでいくことが重要との指摘があったほか、パネルディスカッションでは、人口減少が進む中、持続可能なインフラの整備(メンテナンス)がこれまで以上に求められることを確認した。

プログラム	講演者・講演テーマ
開会挨拶	川崎 茂信氏 (国土交通省中国地方整備局 局長)
来賓挨拶	大森 雅夫氏 (岡山市長)
国からの情報提供	鈴木 学氏 (国土交通省総合政策局 事業総括調整官) 「インフラを取り巻く状況とインフラメンテナンス革命」
特別講演	岡 将男氏 (NPO法人公共の交通機関(RACDA) 会長) 「岡山藩郡代 津田永忠の近世土木遺産に学ぶ」
パネルディスカッション	「インフラを守り、賢く使う地域活性化」 パネリスト： 岡 将男氏 (NPO法人公共の交通機関(RACDA) 会長) 若林 昭吾氏 ((株)三好野本店 代表取締役社長) 吉田 敏晴氏 (国土交通省中国地方整備局 企画部長) コーディネーター：岡山 一郎氏 (山陽新聞社 編集委員室長)



国からの情報提供



特別講演



パネルディスカッション

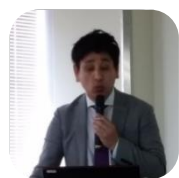
### ◎新時代の道路メンテナンスの取組 in 岡山

＜日時・場所＞ 平成30年3月15日(木)国土交通省 中国地方整備局 岡山国道事務所

＜参加者＞ 91名(民間企業等42名、学校関係者16名、自治体9名、国土交通省24名)

＜概要＞ 岡山県内の民間企業、学校関係者、自治体等を対象とした、県内で行われている道路メンテナンスに関する取組を学ぶセミナーを開催した。

プログラム	講演者・講演テーマ
挨拶	国土交通省中国地方整備局 岡山国道事務所長 池田 裕二
講演	1. 「岡山国道での新技術活用による補修箇所選定プロセス」 世紀東急工業株式会社 技術本部技術研究所 研究員 磯部 雅紀氏 2. 「岡山県下における土木技術者の養成について」 岡山県立岡山工業高等学校 校長 赤木 恭吾氏 3. 「産官学で取り組む『岡山工業高校道路パトロール隊』活動報告」 岡山県立岡山工業高等学校 道路パトロール隊 リーダー 狩屋 雅之氏 4. 「岡山県赤磐市をモデルとした『自動運転システムによる高精度3次元地図』を活用した点検手法」 国立大学法人 岡山大学 教授 西山 哲氏



岡山工業高校  
狩屋氏による講演

## (7) 活動概要 ～インフラメンテナンスへの市民参画の推進～

インフラメンテナンスへの市民参画の具体的な活動に対する支援のあり方を模索を行った。

インフラメンテナンスにおける市民参画の具体事例について事例収集を行うとともに、フォーラムメンバーと地域の取組の関係者のネットワーク構築を進め、フォーラムメンバーのスキル向上に取り組んだ。

今後、優れた取組の収集と水平展開に努めるとともに、インフラメンテナンスへの市民参画の推進に向け、地域等における具体的な支援の実践に展開していく。

### <市民参画フォーラム>

#### ◎ 第1回市民参画フォーラム – 協働コーディネータの知識と技を身につけよう –

<日時・場所> 平成29年3月28日(火) 国土交通省会議室

<参加者> 28名(民間企業等: 20名、NPO: 6名、国交省: 2名)

<講師> 世古一穂(NPO研修・情報センター代表理事、元金沢大学大学院教授)

<概要>

- 長年コーディネータ育成に携わってきた講師の指導により、各地域で市民と行政の協働を促進することができる協働コーディネータの基本を学修。
- フォーラムを受講して、ワークショップの進め方やファシリテータ・協働コーディネータの役割について、概要を理解。

(ワークショップの進め方)

- ・ アイスブレイキングにより初対面の緊張をほぐし、グループ編成
- ・ テーマ①「Wish Poem」; インフラメンテナンスの望ましいイメージについて、各メンバーが1行の詩を作成し、次にチームで各メンバーの詩を繋ぎ合せて一つの詩を完成  
→作業を通じてメンバー間で、課題の抽出、数回の合意形成、情報共有
- ・ テーマ② ワークショップやファシリテータに関する疑問点の整理  
→構造化の作業を通じて他メンバーの考えを理解・合意、チームの考えをワークシートに表現



会場の様子



グループワークの様子

#### ◎ 第2回インフラメンテナンス郡山フォーラム ～地域のインフラは地域で守る～

<日時・場所> 平成30年2月20日(火)郡山市役所

<参加者> 発表者等、自治体(郡山市他4市町村、福島県)、民間企業・地元町会、国土交通省)

<概要>

- 今回のフォーラムでは、他市の先進的取組についての基調講演の後、「地域のインフラは地域で守る」をテーマとしたパネルディスカッションを通じ、インフラメンテナンスの現状や課題等について議論を深めた。

<プログラム>

基調講演

- ・ 植野 芳彦氏(富山市建設技術統括監)「持続可能な橋梁マネジメントの実現に向けて～富山スタイル～」
- ・ 今井 努氏(周南市職員)「共 Do! で繋ぐ私たちの未来」

パネルディスカッション

①話題提供

- ・ 安原 達氏(国土交通省総合政策局公共事業企画調整課)「」
- ・ 浅野 和香奈氏(日本大学大学院工学研究科)「橋のセルフメンテナンスふくしまモデルの構築と実践」
- ・ 黄木 秀実氏(ニチレキ株式会社)「小規模補修材の試験施工に関する説明」

②パネルディスカッション テーマ 「地域のインフラは地域で守る」



郡山市長挨拶 品川 万里 氏 基調講演



パネルディスカッション

・ 水平展開の具体的な取り組みに向け、事例収集やネットワーク構築

# (8) 第1回インフラメンテナンス大賞 表彰式

◎ 第1回インフラメンテナンス大賞 授与式 平成29年度インフラメンテナンス国民会議総会

第1回 インフラメンテナンス大賞 表彰式  
平成29年度 インフラメンテナンス国民会議 総会

国土交通大臣賞 メンテナンスを支える  
活動部門  
しゅうニャン橋守隊 (CATS-B) による  
猫の手メンテナンス活動

周南市 ゼネラルコンサルタント(株) 徳山工業高等専門学校  
山口県 山口建設コンサルタント  
今井 努 貞升 孝昭 海田 辰将 中越 亮太  
小山 淳子 西本 忠厚 岡本 知也



2017年7月24日(月)に国土交通省において第1回インフラメンテナンス大賞 授与式ならびに平成29年度インフラメンテナンス国民会議総会を同時開催した。

インフラメンテナンス大賞 授与式では各省大臣賞・特別賞・優秀賞、全28案件に対する表彰がなされた後、選考委員長の講評、国民会議 富山会長・家田副会長からのメッセージが送られた。

総会では、国民会議設立後の活動報告とH29年度事業計画について吉田企画部会長から説明がなされた。

## 概要

**日時：** 2017年7月24日(月) 10:30~15:30

**議事：** 【午前の部】 国土交通大臣祝辞、各賞授与、選考委員長 講評、国民会議会長・副会長からのメッセージ  
【午後の分】 各省大臣賞 受賞案件 プレゼン、国民会議活動報告・計画説明、第2回大賞についての説明

- 出席者：**
- ・ **委員長：**  
豊橋技術科学大学 学長・日本学術会議 会長 大西 隆
  - ・ **会長：**  
株式会社経営共創基盤 代表取締役CEO 富山 和彦
  - ・ **副会長：**  
政策研究大学院大学 教授 家田 仁
  - ・ **主務省庁代表：**  
国土交通大臣 石井 啓一  
総務大臣政務官 金子 めぐみ  
文教施設企画部長 山下 治  
厚生労働大臣政務官 堀内 詔子  
農林水産大臣政務官 細田 健一  
防衛大臣政務官 宮澤 博行

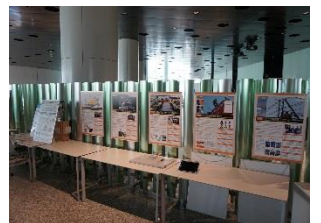
※役職は2017年7月24日当時

- ・ 都道府県・政令市：43名
- ・ 大賞 受賞者：133名
- ・ 国民会議 会員：94名
- ・ 関係省庁：40名
- ・ マスコミ：19名
- 合計 約350名

## ベストプラクティス (インフラメンテナンス大賞) の水平展開

### <パネルの展示>

- インフラメンテナンス大賞のパネルを国民会議に係る各種イベントで展示
- ベストプラクティスの水平展開を推進





# (8) 第1回インフラメンテナンス大賞 受賞案件

※凡例 ア メンテナンス実施現場における工夫部門 イ メンテナンスを支える活動部門 ウ 技術開発部門

省	No.	表彰の種類	部門*	分野	応募者(代表企業・団体名)	応募案件名
総務省	1	総務大臣賞	ウ	情報通信	エヌ・ティ・ティ・インフラネット(株)	屋外設備データベースのメンテナンスを抜本的に効率化する計測・管理技術の開発
	2	情報通信技術の優れた活用に関する総務大臣賞	ウ	道路	首都高速道路(株)	GISと三次元点群データを活用した道路・構造物維持管理支援システムの開発
	3	特別賞	ア	情報通信	(株)NTTファシリティーズ	全国各地へ面的に広がる日本の通信インフラの保守、機能継続
	4	優秀賞	ア	情報通信	東日本電信電話(株)	通信用鉄塔設備劣化度判定の簡易化・定量化の実現と点検業務効率化の推進
	5		ア	情報通信	(株)NTT東日本一東北	元位置工具による共架柱の更改コストの削減について
	6		ウ	情報通信	讀賣テレビ放送(株)	タブレット端末を使用したオンエア監視装置の開発
文部科学省	1	文部科学大臣賞	イ	文教施設等	国立大学法人名古屋大学	大学施設の創造的再生に向けた教職協働によるキャンパスマネジメント
	2	特別賞	イ	文教施設等	国立大学法人岐阜大学工学部附属インフラマネジメント技術研究センター	健全なインフラメンテナンスをリードする技術者の育成事業(ME養成及び道守養成)
	3	優秀賞	ア	文教施設等	八女市	老朽化した中学校屋内運動場の長寿命化を図り活用した取組
	4		ア	文教施設等	橋本市	橋本市立高野口小学校の木造校舎の改修
厚生労働省	1	厚生労働大臣賞	ウ	水道	(株)デック	既設経年管を再利用したステンレス・フレキ管による水道管路の更新・耐震化の新工法
	2	優秀賞	ア	水道	東京都水道局	漏水防止計画作業
	3		ウ	水道	日本ヴィクトリック(株)	伸縮可とう管の変位状況を簡単に検知できる専用の計測装置で、管路の安全管理に貢献
農林水産省	1	農林水産大臣賞	イ	農業農村	山田堰土地改良区	水田を潤す日本最古の三連水車(1789年 寛政元年)の維持・伝統・環境保全活動
	2		イ	林野	公益財団法人オイスカ・名取市海岸林再生の会	東日本大震災復興支援「海岸林再生プロジェクト10ヵ年計画」
	3		ウ	水産	一般社団法人全日本漁港建設協会	「漁港施設点検システム」の構築と活用
	4	特別賞	ア	農業農村	有田川土地改良区	畑地かんがい用水送水施設(パイプライン)の破損事故発生からの早期復旧への取り組み
	5	優秀賞	ア	農業農村	愛谷堰土地改良区	農業水利施設における地域住民参加型「直営施工工事」
	6		イ	林野	NPO法人北海道魚道研究会	魚道データベースの構築と魚道清掃ボランティア活動
	7		ウ	農業農村	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構	ポンプ設備の劣化進行を状態監視する新たな診断システム
国土交通省	1	国土交通大臣賞	ア	下水道	東京都下水道局	「下水道管のビッグデータ」を活用したメンテナンス
	2		イ	道路	しゅうニャン橋守隊	しゅうニャン橋守隊(CATS-B)による猫の手メンテナンス活動
	3		ウ	河川・ダム・砂防・海岸	(株)荏原製作所	維持管理性を向上させた河川排水用新形立軸ポンプ(楽々点検ポンプ)の技術開発
	4	特別賞	ア	鉄道	東海旅客鉄道(株)	東海道新幹線土木構造物の大規模改修による長寿命化
	5	優秀賞	ア	道路	青森県	青森県におけるトータルマネジメントシステムによる橋梁維持管理
	6		ア	道路	島根県	道路橋及びコンクリート構造物の点検・診断等アドバイザー制度
	7		イ	道路	(独)国立高等専門学校機構舞鶴工業高等専門学校 社会基盤メンテナンス教育センター	地元インフラを地元で守り次世代へと継承する建設技術者育成活動
防衛省	1	防衛大臣賞	ア	自衛隊施設	清水建設(株)・(株)村田相互設計・中国四国防衛局	海上自衛隊 第1術科学校『大講堂』平成の大改修



**インフラメンテナンス国民会議（JCIM）事務局**

Mail : [hqt-maintenance-sogo@ml.mlit.go.jp](mailto:hqt-maintenance-sogo@ml.mlit.go.jp)

HP : <http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/im/index.html>

2018.05.15確定版(改)